

連番	意見、質問等	対応状況
1 5	【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	自己評価の基準にあつては、Ⅳ評価は、「年度計画を上回って実施している」、Ⅲ評価は「年度計画を十分に実施している」という基準となっております。この基準を踏まえ、今回の自己評価について、学内の自己評価委員会で検討した結果、内容が昨年度の実績と比較し上回って実施していると判断でき、かつ年度計画自体と比較しても上回っていると判断される項目については、自己評価としてⅣをつけるべきと判断したものです。この項目についても昨年度以上に様々な形で実施していることから、Ⅳ評価としたものです。
2 5	【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
3 6	【質問】 評価指標を「進学相談会21回以上」とした根拠は何か。	平成26年度の年度計画制定時からこの指標が制定されていますが、それまでの参加実績、本学の対応人員及び開催地域等を考慮し決定しています。
4 16	【質問】 評価指標が「実習連絡協議会1回以上」で実績も1回だったが、自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	評価指標である「実習連絡協議会の開催」は1回であるものの、上越教育大学と連携協力協定を締結したことなど、平成26年度の実績を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳ評価としたものです。
5 17	【意見】 平成28年度からの教育過程の一部改正の決定内容の概要と、平成29年度の大規模な教育過程の改正に向けての検討の概要を記載したほうが良いのではないか。	以下の記載を追加することとします。  「平成28年度から、外国語教育の充実を図るための教養科目「フランス語1」の追加や、情報教育の充実を図るためのキャリア教育科目「情報リテラシー論1」「情報リテラシー論2」を新設を行うため、教育課程の一部改正を行うこととした。 また、平成29年度の教育課程の一部改正に向けて、平成27年度に全教員へのアンケート調査を実施し、その結果も踏まえ現行の教育課程における課題等の洗い出しと検証を実施し、基礎教育のあり方や専門教育のあり方などについて教育研究審議会のWG等で検討を行った。」
6 25	【意見】 「厳正に行う」という計画に対して「厳正に行った」と実績評価しているが、これだけでは客観性・具体性を欠いており、外部評価が困難。	進級・卒業認定等については、学則、履修規程等に基づき、教務委員会及び教授会における厳正な審議を経て決定しています。
7 29	【意見】 学生のため多様な取組を行ったほか、客員教授として外部講師を招へいたので、ⅢからⅣにしても良いのではないか。	外部から招聘した客員教授が一昨年度と同様4名であること。また、年度計画内容の「学生が多様な価値観に触れるための取組を行う」を十分実現しているものの、上回っているとまではいえないと判断し、Ⅲ評価としたものです。
8 31	【意見】 外部講師による多様なワークショップやレクチャーなどを実施し、学生の柔軟な思考を育んだと記載されているが、受講した学生の感想を記載したほうが良いのではないか。	連番29の再掲として以下を追記します。 (29の再掲) 「受講した学生へのアンケートでは、「自分に合った表現方法を模索し、発見することを大切にしていきたいと感じた。」「残していきたい技術と新たに発見した技術を作品にいかしていきたいと感じた。」などの回答があり、表現することへの気づきや新たな視点を持つ契機となった。」
9 39	【意見】 計画通り実施したというのであれば、ⅡからⅢへの変更は妥当ではないか。	平成26年度評価は、試行開始が遅れたことから、「評価システムの構築を進める」という年度計画に対して、計画どおり進んでいないと判断し、Ⅱ評価としました。平成27年度実績については、教員評価制度を既に構築し、説明会を実施し、実際に進めていることから計画どおりと判断してⅢ評価としたものです。

連番	意見、質問等	対応状況
10 39	【意見】 教員評価制度を27年度に試行する計画だったことに対して、「28年度から試行することに決定した」ことがⅢに値するか疑問。試行開始が遅れたことを認めるべきでないか。(再掲した95も同じ)	平成26年度評価は、試行開始が遅れたことから、「評価システムの構築を進める」という年度計画に対して、計画どおり進んでいないと判断し、Ⅱ評価としました。平成27年度実績については、教員評価制度を既に構築し、説明会を実施し、実際に進めていることから計画どおりと判断してⅢ評価としたものです。
11 44	【質問】 奨学金20万円を支給した制度の他に、成績優秀者を表彰していないか。他の大学ではどうか。	奨学金支給の他、卒業研究(作品)の優秀者を選定し、卒業式で表彰しています。 秋田大学では、成績優秀者への学業奨励金給付制度により、1人10万円を全学で16名に支給・表彰しています。 他にも、国際教養大学や秋田県立大学において同様の制度があります。
12 47	【意見】 障害学生支援実務者育成研修会、障害学生支援セミナーに参加した感想等を記載したほうが良いのではないか。	以下の記述を追加します。 「参加者からは、先行して取り組んでいる大学の事例を聞いて、本学においても、保健室と臨床心理士との連携を強化しながら、取り組む必要があると感じた。」との報告があり、さらに充実した支援を行うことの必要性を共有できた。
13 49	【意見】 防犯研修や食育料理教室など、新しい取組をしたことは、とても望ましいことである。	今後も学生にとって何が必要なのかの観点から取り組んでいきたいと考えます。
14 49	【意見】 防犯研修及び食育料理教室につきアンケートは実施しているのか。実施しているとすれば、その結果の概要はどうであったか等を記載したほうが良いのではないか。	いずれの研修もアンケートを実施しており、以下の記述を追加します。 「両アンケートの結果については、具体のノウハウや知識を得ることができ、有意義であったとの回答が大多数であった。」
15 54	【質問】 評価指標では、進路決定率100%の目標に対し、90%の実績だったが、自己評価をⅢ(年度計画を十分に実施)とした理由は何か。	進路決定率100%という指標は、本学として目標であり、それが理想ではありますが、100%でⅢではⅣ評価がありえなくなってしまうことから、学内の自己評価委員会で検討し、90%以上であればⅢ評価とすることが妥当であると判断したものです。
16 55	【意見】 就職活動に関する学生の面談の概要を記載したほうが良いのではないか。	以下の記述を変更します。 「学生の面談を行いサポートした。」→「学生に対し、就職活動に必要なエントリーシートの作成方法、面接対応、ポートフォリオ作成などの個別指導を行い、サポートした。」
17 58	【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	年度計画内容である(1)研究の推奨と(2)地域課題について研究や演習授業で課題解決に取り組む点に対し、様々な形で事業を実施し、年度計画等を上回って実施していると考え、Ⅳと自己評価したものです。
18 58	【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
19 60	【意見】 昨年度と同様に、年度計画を上回って実施していることから、Ⅳは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。

連番	意見、質問等	対応状況
20	62 【質問】 自己評価をⅣにした理由は何か(H27からの新項目)。	平成26年度は「てさぐる展」「カツ展」「ティンバライズ秋田の提案展示」だったのに対し、平成27年度は、AkibiPlus事業として前年度を上回った実績があることから、年度計画を上回っていると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
21	63 【意見】 新規取組だが、年度計画を上回って実施しているのであれば、Ⅳは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
22	63 【意見】 「平成27年度BIYONG POINT展覧会」につき、それぞれ来場者数は何名であったのか。来場者に対してアンケートは実施しているか。実施しているとすれば、その結果の概要はどうであったか等、展覧会の概要を記載したほうが良いのではないか。	来場者に対してアンケートは行っておりません。展覧会の概要については、その意図と内容の量が多く、実績表にそぐわないため、記載を省いているものです。 来場者数は、学生が授業として参加している数を含め、以下のとおりです。 ・「カツ」 375名 ・「RAM Extra vol.1 木村剛士   Lonely Planet ～地球の歩き方～」 241名 ・安西剛「事象の再発明 Reinventing the Real」 256名 ・江幡京子「ジャムの瓶詰め小屋 The Game Keeper's Jam Celler (Mixed Berry)」 253名 ・岩井優「習慣のとりこ 一踊り、食べ、排泄する。 Prisoner of habit -dance,eat,defecate」 246名 ・田村一「田村一展 夜の手、手の花」 265名 ・田附勝「みえないところに私をしまう 2013-2015」 283名 ・「AKIBI PEAKS REPORT Re:play Art Presentaition Live」 319名
23	66 【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は、「ガラスプロジェクト」による外部作家のワークショップだったのに対し、平成27年度はそれに加え前年度を大幅に上回った実績であったことから、年度計画を上回って実施していると考え、Ⅳと自己評価したものです。
24	66 【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
25	68 【意見】 社会貢献センターにつき、官公庁や民間団体からの大学への要望・相談と、それに対する大学の関わりの事例をいくつか記載したほうが良いのではないか。	官公庁又は民間から社会貢献センターに対する要望・相談としては、最終的に「受託事業」等として記載した内容が主だったものとなります。相談全体としては、「田んぼアート」の相談など平成27年度中に31件の相談がありましたので、以下を追記します。 「社会貢献センターへの相談件数 31件」
26	72 【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は「てさぐる展」だったのに対し、平成27年度は、「あきたアーツ&クラフツ最前線「頂上へのみち」展覧会」、BIYONG POINTにおける各種展覧会を本学主催で開催し、前年度を上回った実績があることから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
27	73 【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は実績が6件だったのに対し、平成27年度は11件と前年度を大幅に上回った実績があり、かつ評価指標である3件以上も大幅に上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
28	73 【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。

連番	意見、質問等	対応状況
29	75 【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は「カツ・(活動検証展)」「ものづくりデザイン専攻教員12名による作品展「湧水地点～おふくわけ～」だったのに対し、平成27年度は、アトリエももさだ、サテライトセンター、BIYONG POINTにおいて前年度を上回った実績があることから年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
30	75 【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
31	76 【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は実績が7件であるのに対し、平成27年度は11件であること。また評価指標も3件以上であることから、年度計画を上回っていると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
32	76 【意見】 昨年度以上に様々な形で事業を実施しており、ⅢからⅣは妥当ではないか。	本学もそのように考えております。
33	77 【意見】 空き家の活用など、新しい取組をしたことは、とても望ましいことである。	平成28年度は、さらに新規事業として空き家を芸術的側面から有効活用を図る方策を研究する「空き屋レジデンス化プロジェクト」を始め、取組をさらに進めているものです。
34	78 【意見】 外部団体との受託事業の検証結果について概要を記載したほうが良いのではないか。	AKIBI Plus事業や大森山動物園との「Arts&Zooプロジェクト」や外部団体との受託事業の実施を通して、組織運営とマネジメントを行ったものですが、イベントなどの一過性の盛り上がりを作るだけでなく、アートという観点と手法を用いて、長期的な地域づくりや組織イメージの向上、それを担える人材の育成などが多方面の効果があると考えております。具体的な実証内容は、多岐にわたるため、AkibiPlusのホームページで公開しております。
35	78 【意見】 AKIBIPlus事業など、新しい取組をしたことは、とても望ましいことである。	平成27年度に引き続き、平成28年度においても文化庁事業として「AkibiPlus」事業が採択され、さらに取組を進めているものです。
36	83 【質問】 自己評価をⅡからⅣにした理由は何か。	平成26年度は、国際交流関係規程の理事会提出並びにハワイ大学および国際教養大学からの講師招聘および交流等であったのに対し、平成27年度は、国際交流関係規程の制定のみならず、海外の3大学への視察と意見交換、英文の大学案内作成、国際交流事業の実施など、前年度を大幅に上回った実績があること。評価指標「人的な交流年2件以上」に対し、4件あることから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
37	83 【意見】 評価指標を上回ったものの、実績を見る限り、Ⅳでなく、年度計画を十分に実施したⅢの評価が妥当ではないか。	平成26年度は、国際交流関係規程の理事会提出並びにハワイ大学および国際教養大学からの講師招聘および交流等であったのに対し、平成27年度は、国際交流関係規程の制定のみならず、海外の3大学への視察と意見交換、英文の大学案内作成、国際交流事業の実施など、前年度を大幅に上回った実績があること。評価指標「人的な交流年2件以上」に対し、4件あることから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
38	84 【質問】 自己評価をⅡからⅣにした理由は何か。	平成26年度は「教職員等による国際交流に関する規程(案)」および「作品等による交流に関する規程(案)」を理事会報告だったのに対し、平成27年度は、協定締結候補校を実際に決定し、訪問し、協定締結および交流等に向けての話し合いを始めたこと。芸術・デザイン大学の国際的な連合組織である「クルムス」に訪問し、参加について検討を進めたことなど、前年度を大幅に上回った実績があること。評価指標「候補選定数2件以上」に対し、4件であったことなどから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。

連番	意見、質問等	対応状況
39 84	【意見】 評価指標を上回ったものの、実績を見る限り、Ⅳでなく、年度計画を十分に実施したⅢの評価が妥当ではないか。	平成26年度は「教職員等による国際交流に関する規程(案)」および「作品等による交流に関する規程(案)」を理事会報告だったのに対し、平成27年度は、協定締結候補校を実際に決定し、訪問し、協定締結および交流等に向けての話し合いを始めたこと。芸術・デザイン大学の国際的な連合組織である「クルムス」に訪問し、参加について検討を進めたことなど、前年度を大幅に上回った実績があること。評価指標「候補選定数2件以上」に対し、4件であったことなどから、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
40 85	【意見】 「国際交流センター」の財政面、組織面等について洗い出した問題点の概要を記載したほうが良いのではないか。	以下の記述を変更します。 「引き続き財政面、組織面等について問題点の洗い出しを行った。」→「引き続き、国際交流センターの学内での位置づけと体制、業務とそれに伴う予算・人員配置等について検討した。」
41 86	【質問】 自己評価をⅡからⅢにした理由は何か。	平成26年度評価は、「学生の留学等に関する規程(案)」を理事会に報告した」のみであり、年度計画に対して、計画どおり進んでいないと判断し、Ⅱ評価としました。 平成27年度については、「学生の海外留学や海外からの留学生向けのプログラムの整備を進める。」という年度計画に対し、十分実施していると判断し、Ⅲ評価とさせていただいたものです。
42 87	【質問】 自己評価をⅡからⅢにした理由は何か。	平成26年度評価は、「学生を対象とした短期留学制度について規程案を作成し、理事会に報告した。」のみであり、年度計画に対して、計画どおり進んでいないと判断し、Ⅱ評価としました。 平成27年度については、「学生の短期留学の実現に向けて体制づくりに取り組む。」という年度計画に対し、十分に実施していると判断し、Ⅲ評価としたものです。
43 103	【質問】 自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	平成26年度は「秋田産学官ネットワーク主催の産学官連携コーディネータ会議に参加し、企業や官公庁の産学官連携活動について情報交換を行った」のみであり、同年度の産学官連携事業数も7件7,840,800円であったのに対し、平成27年度実績の11件、27,689,248円であり、年度計画を上回って実施していると判断し、Ⅳと自己評価したものです。
44 114	【意見】 3年次生による「秋美専攻展」につき、来場者は何名であったのか。来場者に対してアンケートは実施しているか。実施しているとすれば、その結果の概要はどうか等、専攻展の概要を記載したほうが良いのではないか。	下記のように記述を追加します。 「「秋美専攻展」の来場者は1,309名。来場者に対してアンケートを実施した。結果については、展示スペースのわりに作品の数が多く、展示方法に工夫がほしかったとの意見もあったが、学生の作品の出来栄を評価する声が大多数であった。」
45 119	実施した「リスク管理」の内容が不明確であり、外部評価が困難。	大学全体の危機管理の枠組みとして「危機管理基本マニュアル」を、また個別マニュアルとして「防災対応」「事件・事故対応」「学生のための危機管理」「新型インフルエンザ対応」等を整備しており、これらのマニュアルとマニュアルに定めた手順を全教職員が共有し、即応態勢をとっております。 また、学生と教職員による避難訓練を実施し災害時の対応手順を確認したほか、災害時に移動等の制限が発生した場合に備えるため、飲料水、防災食、毛布、トイレセット等の災害用備蓄を行うこととし、必要な予算を確保しました。

連番	意見、質問等	対応状況
46 その他	【意見】 全体的印象として、自己評価が全てⅣ（計画を上回って実施）またはⅢ（計画を十分に実施）となっている（Ⅱ以下が皆無である）点はやや不自然。第三者目線で見ると、自己評価または目標設定のいずれか（または両方が）甘いと思われる可能性。機会を捉えて見直しが必要と思われる。	年度計画も3年目であり、当初中期計画で設定した内容は順調に実施していると考えている。このため、実施できなかった項目が今回は無くなってきているものであり、このような自己評価となったものです。
47 その他	【意見】 「年度計画評価指標」の設定レベルが、実力に比して低すぎるように思われる項目が散見される。（連番60、62、73、76）	平成27年度計画において年度計画評価指標が既に設定され、変更できないものであるため、今後の年度計画においては、再度検討したいと考えます。 また、評価指標以上の実績が出せるよう取り組んでいきたいと考えております。
48 その他	【意見】 業務実績に対する定量的評価を深める余地があるように思われる。 例えば、「新たに開拓した就職先」の実数把握はできないか（連番52） また、「競争的研究資金の獲得」の実績を評価するうえで、前年度実績等、他に比較参照可能なデータはないか（連番102、103）	平成27年度の「新たに開拓した就職先」は、81社となっております。 また、「競争的研究資金の獲得」の実績等の前年度比較は以下のとおりです。 102番（外部獲得研究費） 平成26年度 18,513,000円 平成27年度 23,323,000円  103番（受託事業等） 平成26年度 7,840,800円 平成27年度 27,689,248円
49 その他	【意見】 重複記載もあり、実績項目数が多すぎる印象なので、もう少し項目を絞っても良いのではないか。	年度計画自体は既に決定しており、その各項目に対しての実績報告であると共に、似たような項目であっても観点が違うことから、単に○番のとおりと記述できず、このような実績報告書となっているものです。